

# ANAホールディングス株式会社 説明会

## 2023年3月期 第3四半期決算

2023年2月2日

上席執行役員  
グループCFO

中堀 公博



## 目次

## 2022年度 第3四半期決算

1. 決算概要、通期業績予想の修正			
決算概要（第3四半期累計）	P. 3		
決算概要（第3四半期）	P. 4		
事業別の取り組み	P. 5		
通期業績予想（修正）	P. 7		
足元の需要動向	P. 8		
セグメント別計画（修正）	P. 9		
航空事業 売上・費用計画（修正）	P. 10		
2. 連結決算（詳細）			
経営成績	P. 11		
財政状態	P. 12		
キャッシュフロー	P. 13-14		
セグメント別実績	P. 15		
3. 航空事業			
収入・費用		P. 16	
営業利益 増減要因		P. 17	
売上高の推移		P. 18	
ANA国際旅客		P. 19	
ANA国内旅客		P. 20	
ANA国際貨物		P. 21-22	
ANA国内貨物		P. 23	
LCC		P. 24	
事業別の概況		P. 25-26	
コロナ前との対比		P. 27	
燃油・為替ヘッジの進捗状況（ANA）		P. 28	
航空機数		P. 29	
4. ノンエア事業			
航空事業以外のセグメント		P. 30	

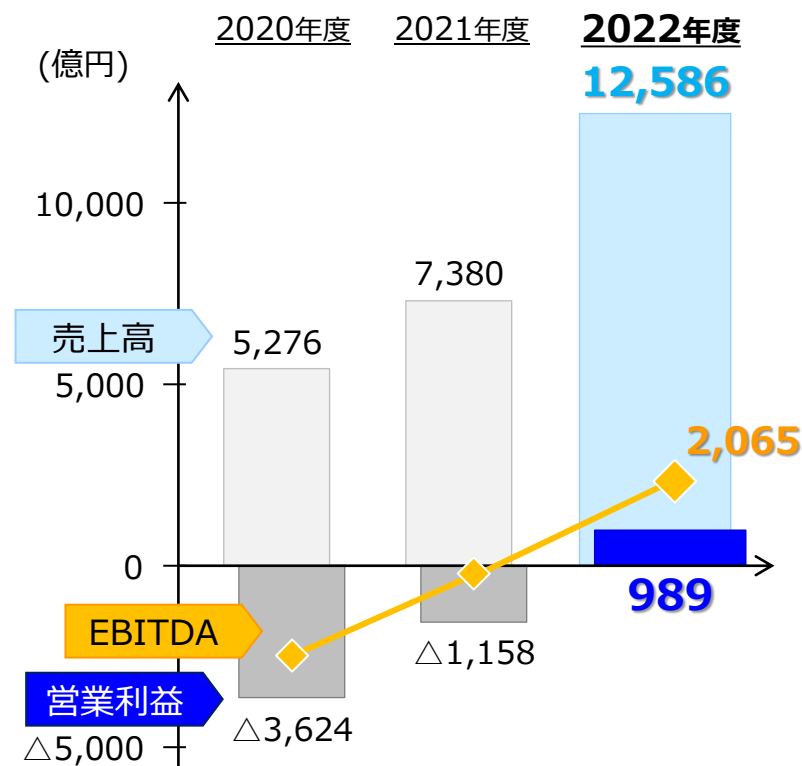
## 決算概要 (第3四半期累計)

## 2022年度 第3四半期決算 (4-12月、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	<b>12,586</b>	+5,206	+70.5%
航空事業	11,340	+4,955	+77.6%
営業費用	<b>11,596</b>	+3,058	+35.8%
航空事業	10,348	+2,835	+37.7%
営業利益	<b>989</b>	+2,147	-
航空事業	991	+2,120	-
営業利益率	7.9%	-	-
経常利益	<b>923</b>	+2,106	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	<b>626</b>	+1,654	-
EBITDA	<b>2,065</b>	+2,121	-

## 売上高・営業利益の推移

(第3四半期累計・連結)

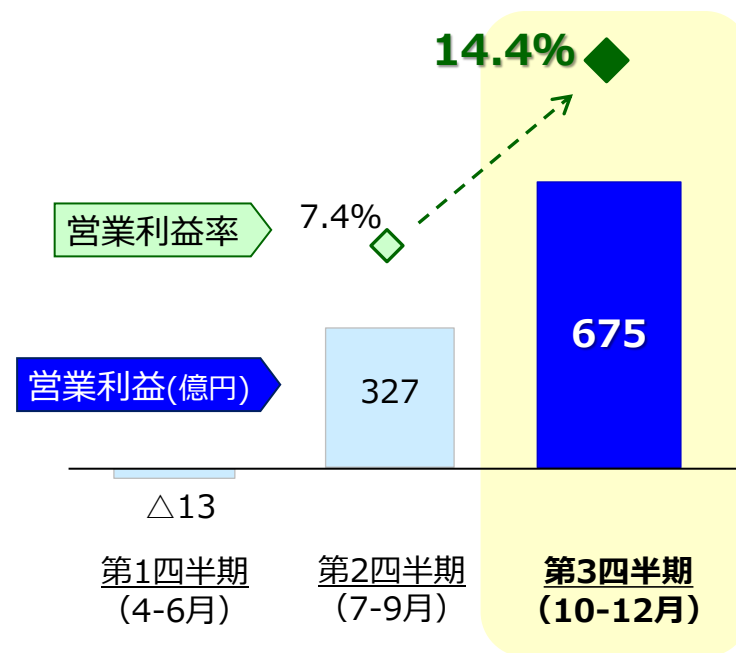


1. 売上高 : 旅客需要を確実に取り込み、前年から大幅に増加
2. 営業利益 : 2022年10月末に修正した**通期の営業利益計画を超過**
3. EBITDA : 前年同期と比べて、2,121億円の改善

## 決算概要 (第3四半期)



## 2022年度 第3四半期 (10-12月のみ、連結)

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	<b>4,679</b>	+1,610	+52.5%
航空事業	4,211	+1,530	+57.1%
営業費用	<b>4,004</b>	+936	+30.5%
航空事業	3,620	+947	+35.4%
営業利益	<b>675</b>	+673	355.4倍
航空事業	591	+583	73.9倍
営業利益率	14.4%	+14.4pt	-
経常利益	<b>621</b>	+649	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	<b>430</b>	+470	-
EBITDA	<b>1,041</b>	+672	+182.3%

営業利益・営業利益率の推移  
(2022年度 四半期別・連結)

四半期ベースの業績は着実に改善

## 事業別の取り組み (第3四半期)

	事業環境	具体的な取り組み、概況	10-12月のみ 売上高 前年同期比
 国際旅客	水際対策が緩和	1) 北米線、アジア線を中心に旅客数が大幅増加 2) 運賃コントロールを徹底→高イールドが継続	約7.2倍 (+1,111億円)
国際貨物	需給逼迫が軟化	3) 主要商材(自動車・半導体)の需要が弱含み ・単価は前年並みの高水準を維持	△27% (△267億円)
国内旅客	ウイズコロナが定着 「全国旅行支援」の実施	4) 大型機を活用して、レジャー需要の獲得を強化 ・10月初めから全15機のボーイング777型機が運航可能に	+58% (+546億円)
国内線の運航便数はグループ計でコロナ前水準に回復			
 LCC	レジャー需要が回復	5) 国際線の運航を再開し、機材稼働を向上	+85% (+97億円)

生産量を機動的に拡大 → 旅客需要を取り込みトップラインを向上

Intentionally Left Blank

## 通期業績予想 (修正)

## 2022年度 通期業績予想の修正 (連結)

(億円)	前回修正 (22.10.31)	今回修正 (23.2.2)	差異
売上高	17,000	17,100	+100
航空事業	15,270	15,320	+50
営業利益	650	950	+300
航空事業	680	965	+285
営業利益率	3.8%	5.6%	+1.7pt
経常利益	550	850	+300
親会社株主に帰属する 当期純利益	400	600	+200
EBITDA	2,105	2,405	+300

## 修正のポイント

- 1) 国際線旅客収入が想定以上に好調
- 2) 営業費用が計画を下回る見通し  
(コストマネジメントの徹底、市況変動)

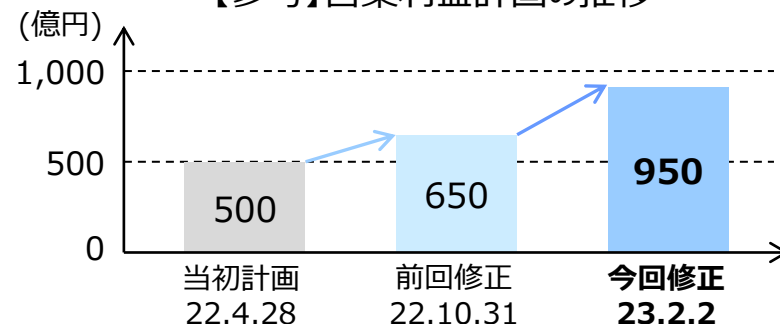
## 通期業績予想を上方修正

- > 第3四半期の実績を反映
- > 第4四半期は計画を据え置き(\*1)

\*1：2022年10月31日開示

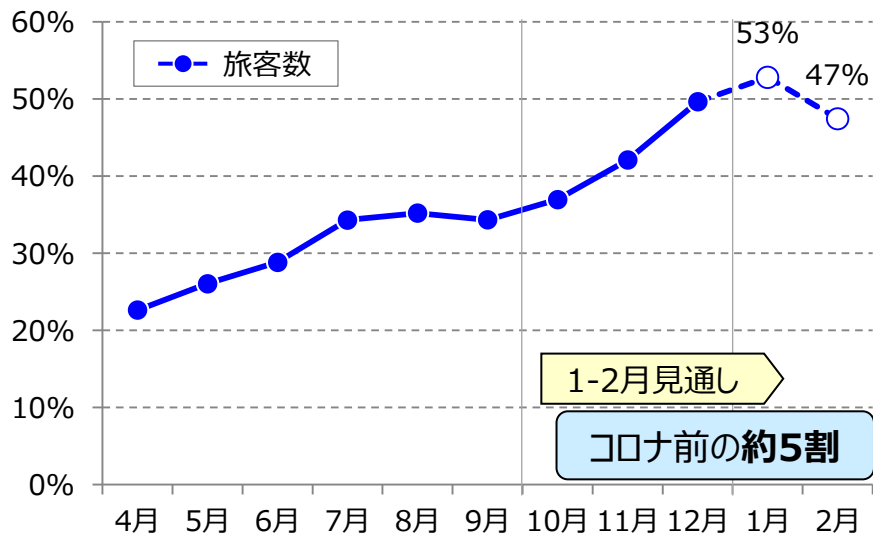
市況	前回 (下期修正)	今回 (変更なし)
為替レート (円/US\$)	145	145
ドバイ原油 (US\$/bbl)	100	100
シンケロ (US\$/bbl)	130	130

## 【参考】営業利益計画の推移

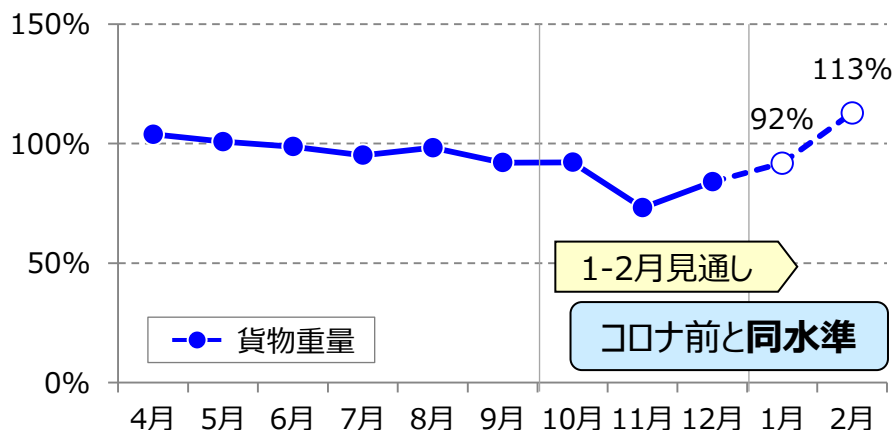


## 航空事業・事業別の需要動向（コロナ前との比較）

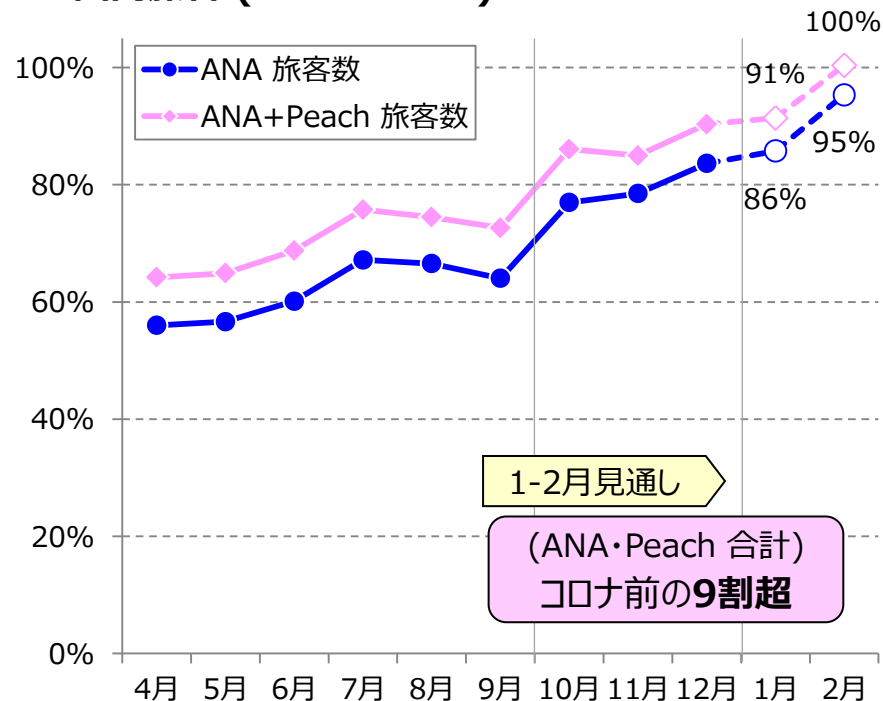
## 1. ANA国際旅客



## 2. ANA国際貨物



## 3. 国内旅客 (ANA・Peach)



\* グラフは全てコロナ前との比較

- ① 4~12月実績 : 2019年4~12月(2019年度 3Q) との比較
- ② 1~2月実績 : 2019年1~2月(2018年度 4Q) との比較

\* 収益認識に関する会計基準の適用により、実績・見通しともに特典航空券の利用旅客を含んで算定  
(新収益認識に基づいて変更した2019年実績との対比)

## セグメント別 計画 (修正)

(億円)		FY2021	FY2022 今回修正予想	前年差	FY2022 前回修正予想*
売上高	航空事業	8,850	15,320	+ 6,469	15,270
	航空関連事業	2,068	2,500	+ 431	2,500
	旅行事業	462	800	+ 337	850
	商社事業	816	1,050	+ 233	1,000
	その他	381	370	△ 11	370
	調整額	△ 2,376	△ 2,940	△ 563	△ 2,990
	合計 (連結)	10,203	17,100	+ 6,896	17,000
営業利益	航空事業	△ 1,629	965	+ 2,594	680
	航空関連事業	△ 6	65	+ 71	55
	旅行事業	△ 21	△ 10	+ 11	△ 5
	商社事業	5	30	+ 24	25
	その他	13	5	△ 8	5
	調整額	△ 93	△ 105	△ 11	△ 110
	合計 (連結)	△ 1,731	950	+ 2,681	650

\* 2022年10月31日開示の業績予想

## 航空事業 売上高・営業費用 計画 (修正)

(億円)		FY2021	FY2022 今回修正予想	前年差	FY2022 前回修正予想*
売上高	国際旅客	701	4,110	+ 3,408	4,000
	国内旅客	2,798	5,320	+ 2,521	5,320
	ANA 貨物郵便	3,617	3,600	△ 17	3,660
	その他	1,354	1,340	△ 14	1,300
	LCC	378	950	+ 571	990
	合計	8,850	15,320	+ 6,469	15,270
営業費用	燃油費・燃料税	1,939	3,660	+ 1,720	3,690
	燃油費・燃料税 以外	8,540	10,695	+ 2,154	10,900
	合計	10,480	14,355	+ 3,874	14,590
営業利益	営業利益	△ 1,629	965	+ 2,594	680

\* 2022年10月31日開示の業績予想

## 経営成績

(億円)	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期	前年差
売上高	7,380	12,586	+ 5,206	4,679	+ 1,610
営業費用	8,538	11,596	+ 3,058	4,004	+ 936
営業利益	△ 1,158	989	+ 2,147	675	+ 673
営業利益率 (%)	-	7.9	-	14.4	+14.4pt
営業外損益	△ 25	△ 66	△ 41	△ 54	△ 24
経常利益	△ 1,183	923	+ 2,106	621	+ 649
特別損益	△ 62	△ 0	+ 62	-	+ 4
親会社株主に帰属する四半期純利益	△ 1,028	626	+ 1,654	430	+ 470
四半期純利益	△ 1,017	636	+ 1,653	436	+ 475
その他包括利益	80	△ 195	△ 276	△ 417	△ 438
包括利益	△ 936	441	+ 1,377	18	+ 37

## 財政状態

(億円)	FY2021 期末	FY2022 第3四半期末	前年度 期末差
総資産	32,184	32,849	+ 664
自己資本	7,972	8,426	+ 454
自己資本比率 (%)	24.8	25.7	+ 0.9pt
有利子負債残高	17,501	16,246	△ 1,254
D/ELシオ (倍)	2.2	1.9	△ 0.3
手元流動性資金 *1	9,509	10,836	+ 1,326
純有利子負債残高 *2	7,991	5,409	△ 2,581
ネットD/ELシオ (倍) *3	1.0	0.6	△ 0.4

\*1 手元流動性資金 = 現金及び預金 + 有価証券

\*2 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - 手元流動性資金

\*3 ネットD/ELシオ = 純有利子負債 ÷ 自己資本

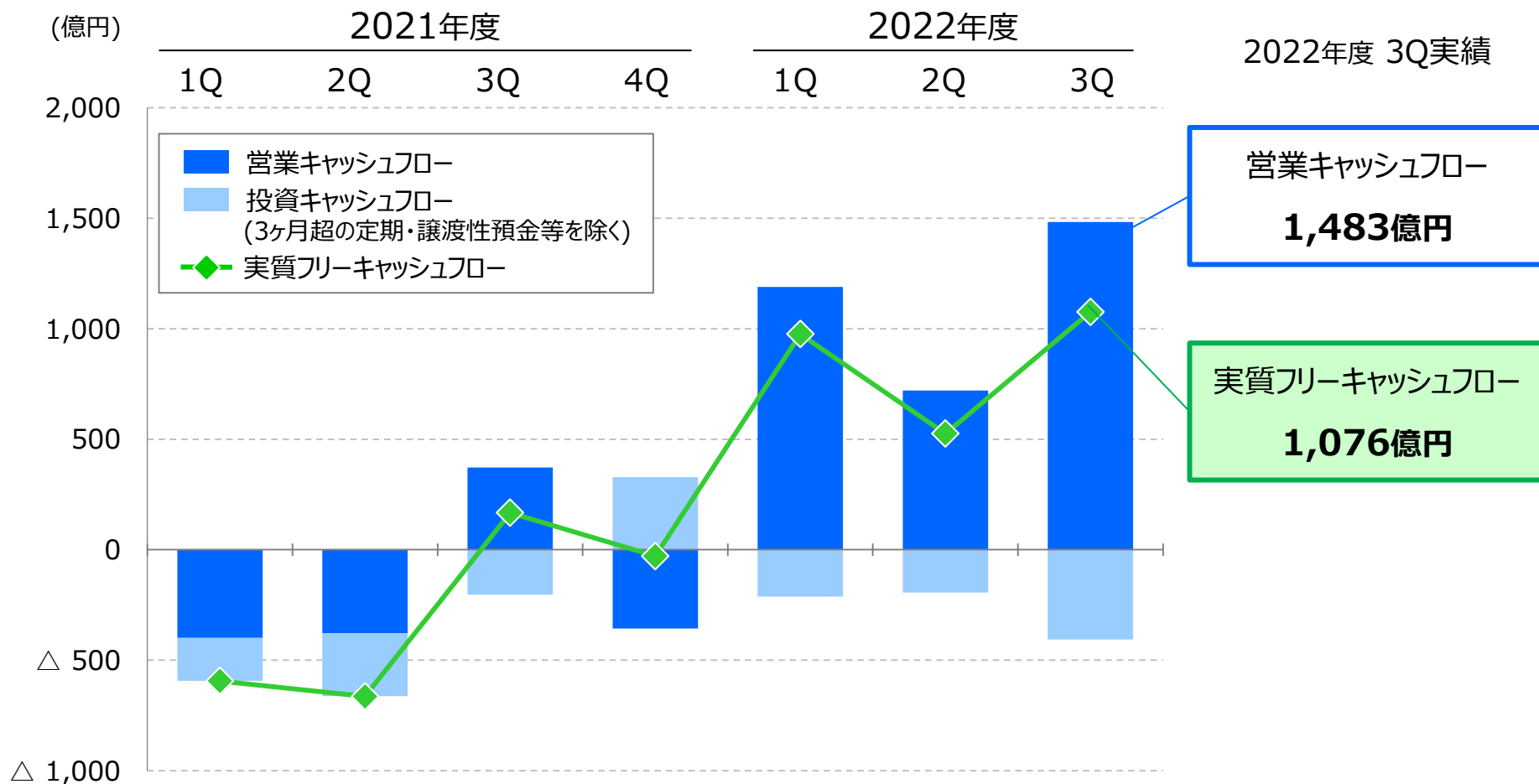
## キャッシュフロー

(億円)	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	△ 406	3,392	+ 3,799
投資キャッシュフロー	1,109	△ 1,530	△ 2,640
財務キャッシュフロー	1,150	△ 1,275	△ 2,425
現金及び現金同等物の増減額	1,850	610	△ 1,240
現金及び現金同等物の期首残高	3,703	6,210	} + 610
現金及び現金同等物の期末残高	5,553	6,820	
減価償却費	1,177	1,114	△ 63
設備投資額 (固定資産のみ)	1,173	943	△ 230
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金等を除く)	△ 1,090	2,578	+ 3,668
EBITDA (営業利益 + 減価償却費*)	△ 55	2,065	+ 2,121
EBITDAマージン (%)	-	16.4	-

\* 休止機材費に計上した減価償却費を含まない

## 【参考】実質フリーキャッシュフローの推移

## 実質フリーキャッシュフローは着実に改善



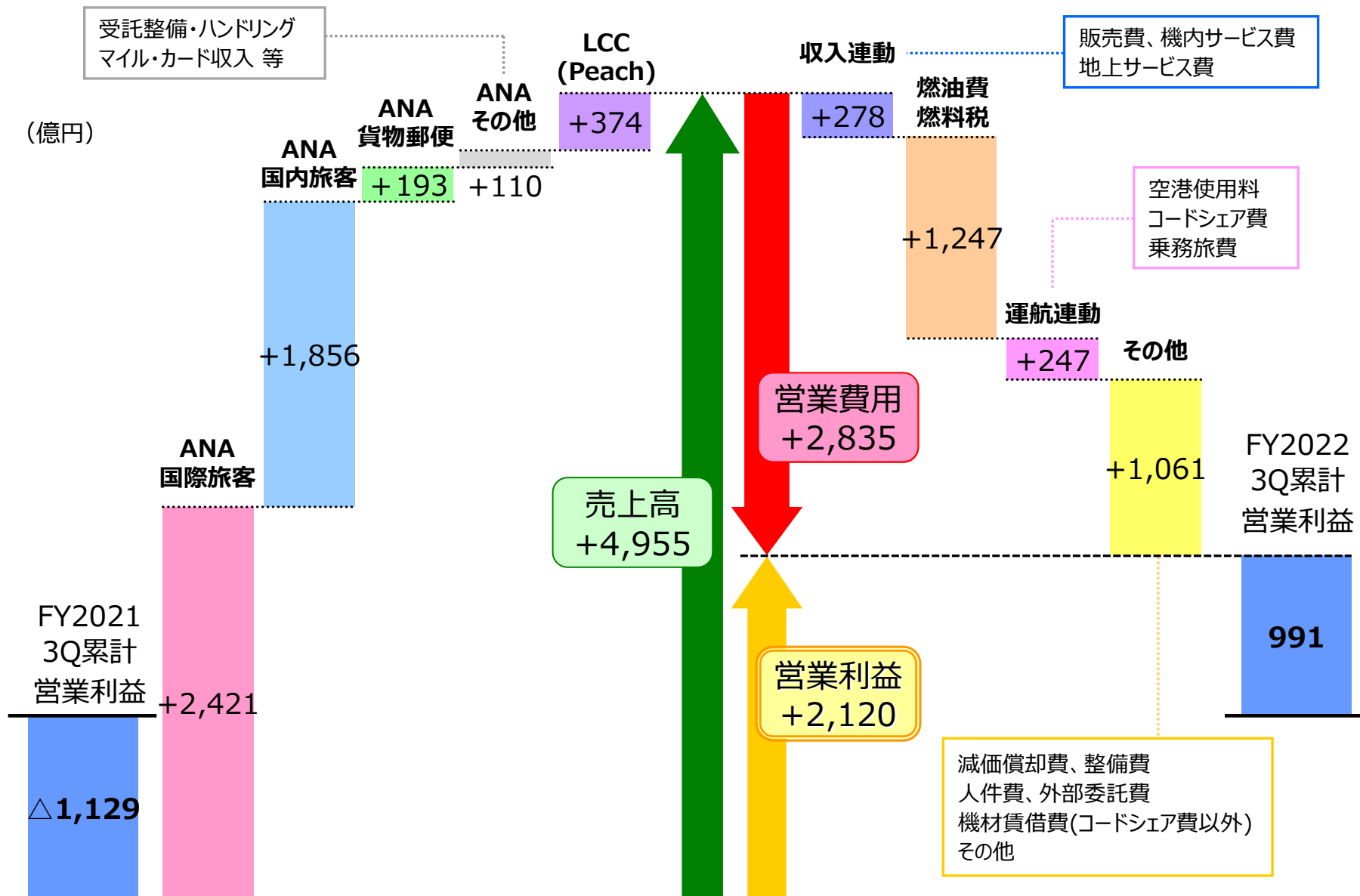
## セグメント別実績

(億円)		FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期	前年差
売上高	航空事業	6,384	11,340	+ 4,955	4,211	+ 1,530
	航空関連事業	1,498	1,802	+ 304	666	+ 145
	旅行事業	345	530	+ 185	210	+ 61
	商社事業	614	765	+ 151	289	+ 58
	その他	276	272	△ 4	94	△ 7
	調整額	△ 1,739	△ 2,125	△ 385	△ 794	△ 177
	合計(連結)	7,380	12,586	+ 5,206	4,679	+ 1,610
営業利益	航空事業	△ 1,129	991	+ 2,120	591	+ 583
	航空関連事業	26	51	+ 24	83	+ 73
	旅行事業	△ 2	△ 6	△ 3	5	+ 6
	商社事業	6	30	+ 23	14	+ 8
	その他	11	3	△ 7	7	+ 3
	調整額	△ 70	△ 80	△ 9	△ 28	△ 1
	合計(連結)	△ 1,158	989	+ 2,147	675	+ 673

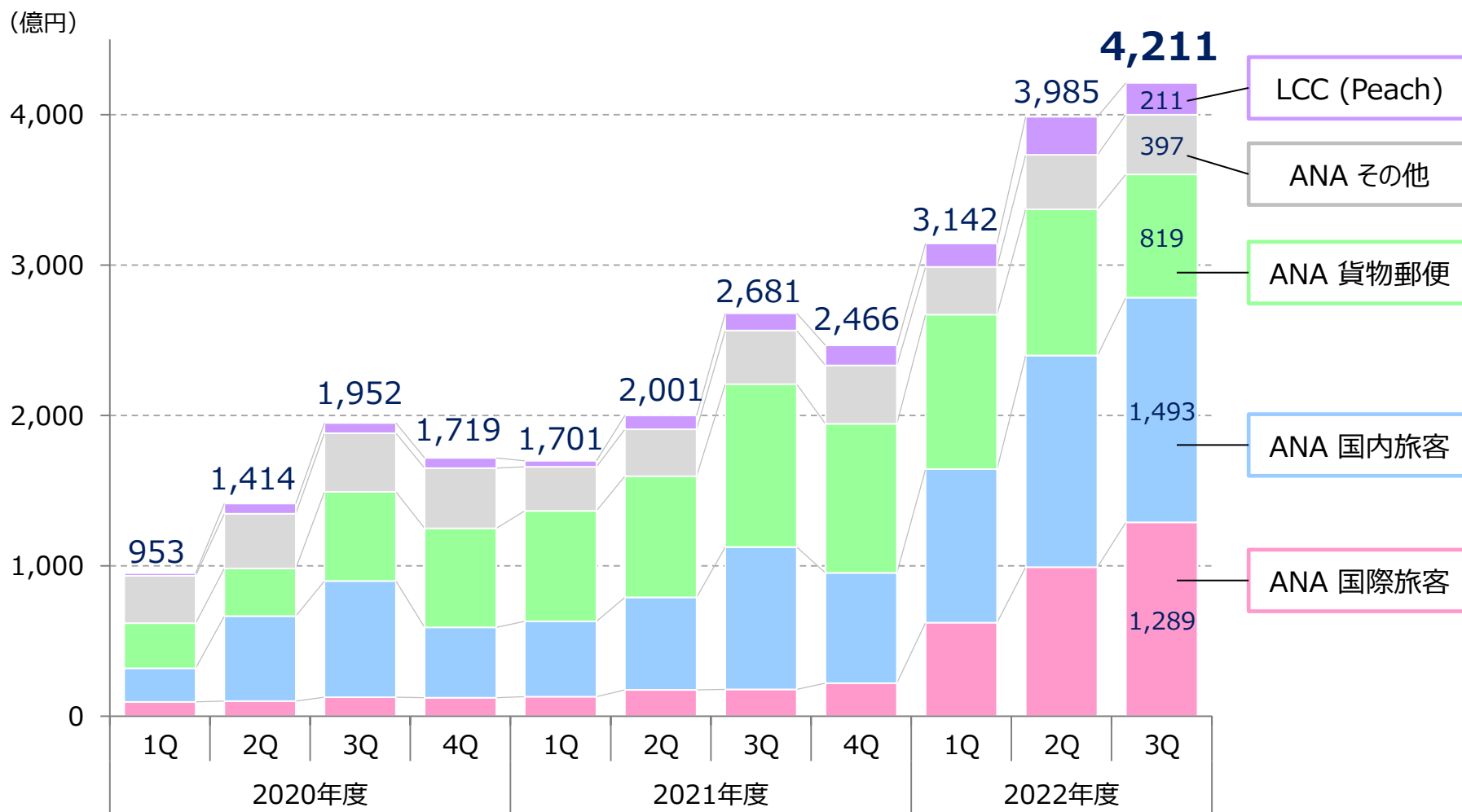
## 収入・費用

(億円)		FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2022 第3四半期	前年差
売上高	ANA 国際旅客	482	2,903	+ 2,421	1,289	+ 1,111
	ANA 国内旅客	2,065	3,921	+ 1,856	1,493	+ 546
	ANA 貨物郵便	2,624	2,818	+ 193	819	△ 263
	ANA その他	966	1,076	+ 110	397	+ 38
	LCC	245	620	+ 374	211	+ 97
	合計	6,384	11,340	+ 4,955	4,211	+ 1,530
営業費用	燃油費・燃料税	1,348	2,596	+ 1,247	890	+ 344
	空港使用料	310	428	+ 118	160	+ 43
	航空機材賃借費	849	987	+ 138	338	+ 51
	減価償却費	1,051	1,031	△ 19	351	+ 1
	整備部品・外注費	597	958	+ 361	314	+ 113
	人件費	1,147	1,402	+ 255	477	+ 92
	販売費	199	355	+ 156	128	+ 48
	外部委託費	1,253	1,523	+ 269	573	+ 134
	その他	756	1,064	+ 307	385	+ 117
	合計	7,513	10,348	+ 2,835	3,620	+ 947
	営業利益	△ 1,129	991	+ 2,120	591	+ 583
EBITDA (営業利益+減価償却費)	△ 77	2,022	+ 2,100	943	+ 584	
EBITDAマージン (%)	-	17.8	-	22.4	+ 9.0pt	

## 営業利益 増減要因



## 【参考】売上高の推移



## ANA国際旅客

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第3四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キ〇 (百万)	14,962	24,804	+ 65.8 (△53.0)	10,093	+ 82.6 (△43.4)
旅客キ〇 (百万)	3,746	17,994	+ 380.3 (△57.7)	7,281	+ 385.8 (△49.2)
旅客数 (千人)	549	2,817	+ 412.9 (△65.4)	1,157	+ 422.1 (△57.0)
座席利用率 (%)	25.0	72.5	+47.5pt*1 (△8.1pt)	72.1	+45.0pt*1 (△8.2pt)
旅客収入 (億円)	482	2,903	+ 501.9 (△42.4)	1,289	+ 622.9 (△23.4)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キ〇)	3.2	11.7	+ 263.1 (+22.4)	12.8	+ 296.0 (+35.4)
イールド (円) (旅客収入/旅客キ〇)	12.9	16.1	+ 25.3 (+36.1)	17.7	+ 48.8 (+50.8)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	87,821	103,063	+ 17.4 (+66.7)	111,434	+ 38.5 (+78.2)

\*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

\*2 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

## ANA国内旅客

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%) (CY19比)*2	FY2022 第3四半期	前年比(%) (CY19比)*2
座席キ〇 (百万)	24,539	37,136	+ 51.3 (△17.4)	13,223	+ 41.0 (△10.0)
旅客キ〇 (百万)	12,090	23,144	+ 91.4 (△31.3)	9,051	+ 65.9 (△19.1)
旅客数 (千人)	13,198	24,870	+ 88.4 (△32.1)	9,719	+ 60.5 (△20.4)
座席利用率 (%)	49.3	62.3	+13.0pt*1 (△12.7pt)	68.5	+10.3pt*1 (△7.7pt)
旅客収入 (億円)	2,065	3,921	+ 89.9 (△30.0)	1,493	+ 57.8 (△19.9)
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キ〇)	8.4	10.6	+ 25.5 (△15.3)	11.3	+ 11.9 (△11.0)
イールド (円) (旅客収入/旅客キ〇)	17.1	16.9	△ 0.8 (+ 1.9)	16.5	△ 4.9 (△1.0)
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	15,648	15,768	+ 0.8 (+ 3.0)	15,363	△ 1.7 (+0.6)

\*1 座席利用率のみ前年差及びCY19差

\*2 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えた場合の数値と比較

## ANA国際貨物（ベリー＋フレイター）

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	5,233	4,980	△ 4.8	1,649	△ 10.6
有償貨物トンキロ（百万）	3,929	3,205	△ 18.4	1,002	△ 29.1
貨物輸送重量（千トン）	743	622	△ 16.3	197	△ 26.1
貨物重量利用率（%）	75.1	64.4	△ 10.7pt*	60.8	△ 15.8pt*
貨物収入（億円）	2,377	2,561	+ 7.7	725	△ 26.9
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	45.4	51.4	+ 13.2	44.0	△ 18.3
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	60.5	79.9	+ 32.1	72.4	+ 3.0
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	320	412	+ 28.7	367	△ 1.2

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国際貨物 (フレイターのみ)

本表のデータは、P.21記載実績の内数

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	1,780	1,805	+ 1.4	580	△ 7.0
有償貨物トンキロ (百万)	1,257	1,161	△ 7.6	365	△ 18.2
貨物輸送重量 (千トン)	317	291	△ 8.1	93	△ 16.9
貨物重量利用率 (%)	70.6	64.3	△ 6.3pt*	63.0	△ 8.7pt*
貨物収入 (億円)	871	1,089	+ 25.0	313	△ 13.8
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	49.0	60.3	+ 23.3	54.0	△ 7.4
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	69.3	93.8	+ 35.4	85.8	+ 5.4
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	275	374	+ 36.1	335	+ 3.7

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国内貨物

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	701	1,044	+ 48.9	380	+ 44.0
有償貨物トンキロ (百万)	213	216	+ 1.3	77	+ 1.4
貨物輸送重量 (千トン)	189	194	+ 2.5	71	+ 3.1
貨物重量利用率 (%)	30.5	20.8	△ 9.7pt*	20.5	△ 8.6pt*
貨物収入 (億円)	187	186	△ 0.9	67	+ 0.5
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	26.8	17.8	△ 33.5	17.7	△ 30.2
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	87.9	85.9	△ 2.3	86.3	△ 0.9
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	99	96	△ 3.4	94	△ 2.6

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## LCC (Peach Aviation)

	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年比(%)	FY2022 第3四半期	前年比(%)
座席キ〇 (百万)	5,556	9,050	+ 62.9	3,018	+ 31.1
旅客キ〇 (百万)	3,336	6,414	+ 92.3	2,205	+ 41.5
旅客数 (千人)	2,922	5,613	+ 92.1	1,929	+ 41.1
座席利用率 (%)	60.0	70.9	+10.8pt*1	73.1	+5.4pt*1
売上高 (億円) *2	245	620	+ 152.5	211	+ 85.0
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キ〇)	4.4	6.9	+ 55.0	7.0	+ 41.1
イールド (円) (売上高/旅客キ〇)	7.4	9.7	+ 31.3	9.6	+ 30.7
単価 (円) (売上高/旅客数)	8,401	11,045	+ 31.5	10,986	+ 31.1

\*1 座席利用率のみ前年差

\*2 売上高に付帯収入を含む

## 事業別の概況 (ANA国際旅客・ANA国際貨物)

## 1. ANA国際旅客

第3四半期(10~12月)の概況

コロナ前同四半期比

1) 水際緩和で訪日需要が増加

旅客キロ 51%

2) イールドマネジメントを強化

イールド 151%

売上高 77%

コロナ前同四半期比

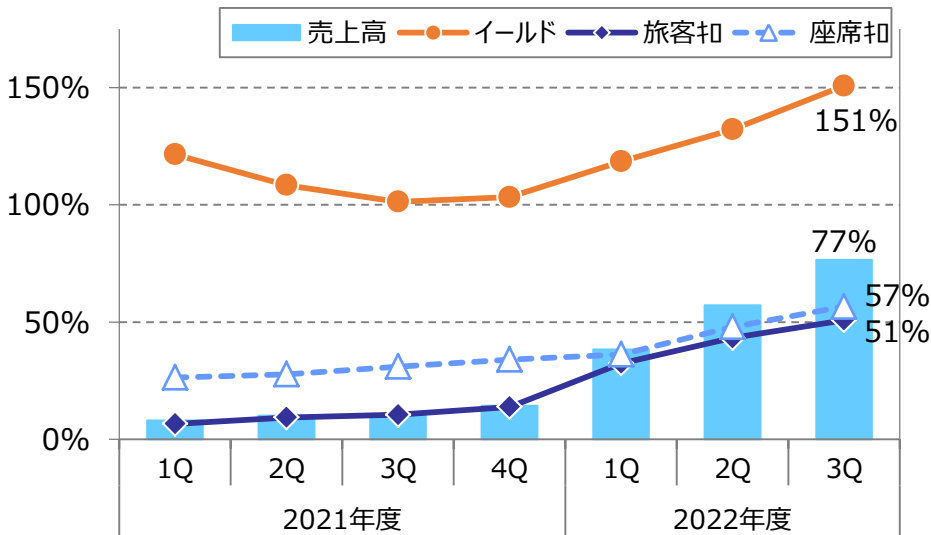
1) 需給バランスは徐々に正常化

貨物重量 83%

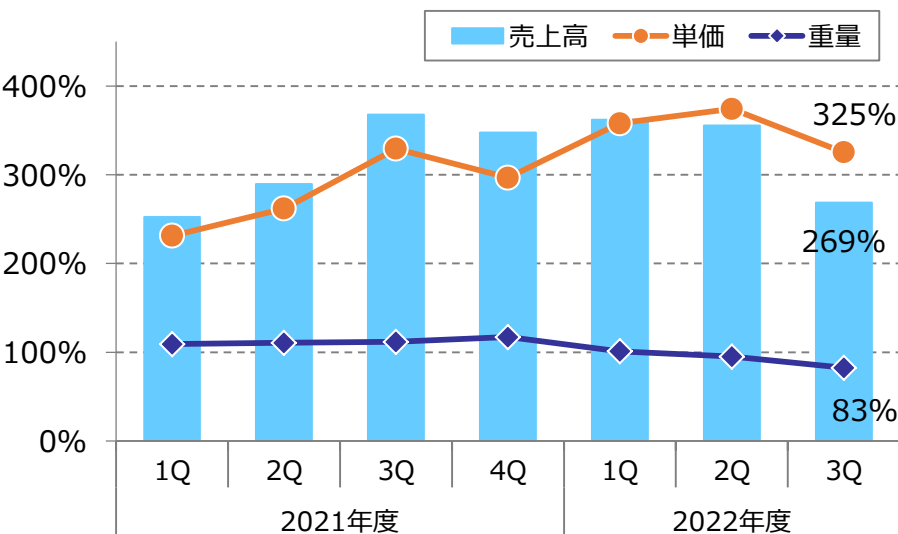
2) フレイターを最大限活用  
高い単価水準を維持

単価 325%

売上高 269%



## 2. ANA国際貨物



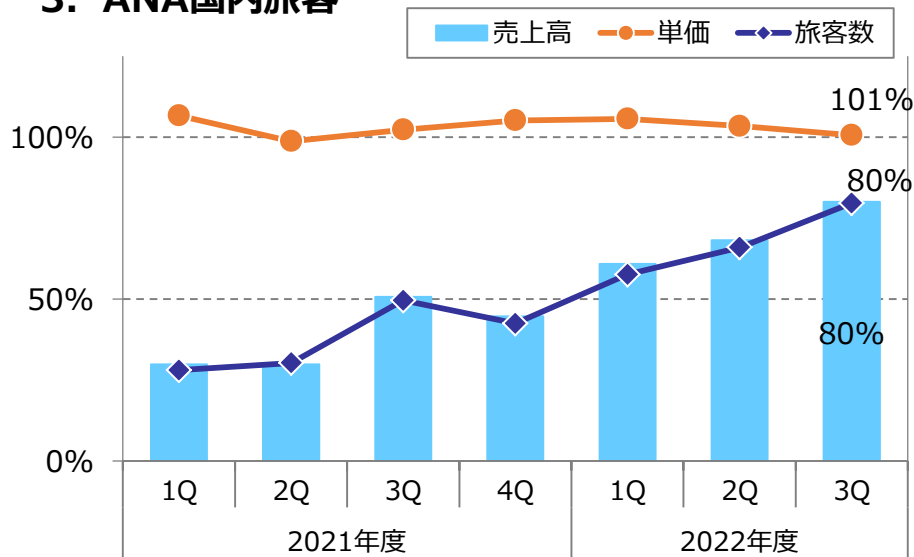
\* グラフはコロナ前実績 (2019年1~12月実績)=100%

\* 2019年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

## 事業別の概況 (ANA国内旅客・Peach)

## 3. ANA国内旅客

第3四半期(10~12月)の概況



1) 大型機の活用で生産量拡大

コロナ前同四半期比

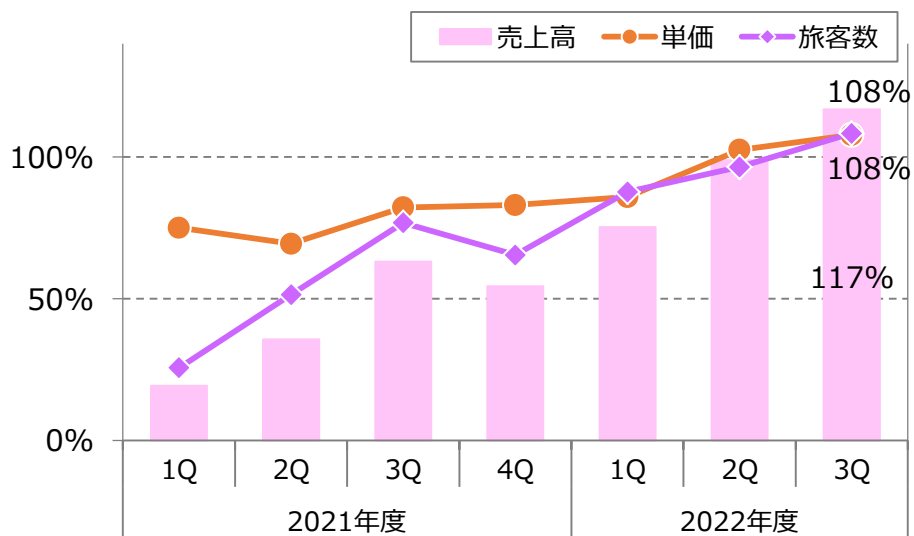
旅客数 80%

2) イールドマネジメントを強化

単価 101%

**売上高 80%**

## 4. Peach (国内線・国際線合計)

1) 国際線の運航再開  
回復する訪日需要を獲得

コロナ前同四半期比

旅客数 108%

2) 値上げ・販促強化

単価 108%

**売上高 117%**

\* グラフはコロナ前実績 (2019年1~12月実績)=100%

\* 2019年度実績は、新収益認識基準に置き換えて算定

## ANA国際線 方面別実績 (構成比)

	FY2019 第3四半期累計 構成比*	FY2022 第3四半期累計 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第3四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
旅客収入	北米	29.7	+ 10.8	39.1	+ 10.3
	欧州	20.1	△ 4.8	16.5	△ 3.0
	中国	13.5	△ 9.2	3.4	△ 8.1
	アジア・オセアニア	30.1	+ 6.5	37.3	+ 4.1
	ハワイ	6.6	△ 3.2	3.7	△ 3.2

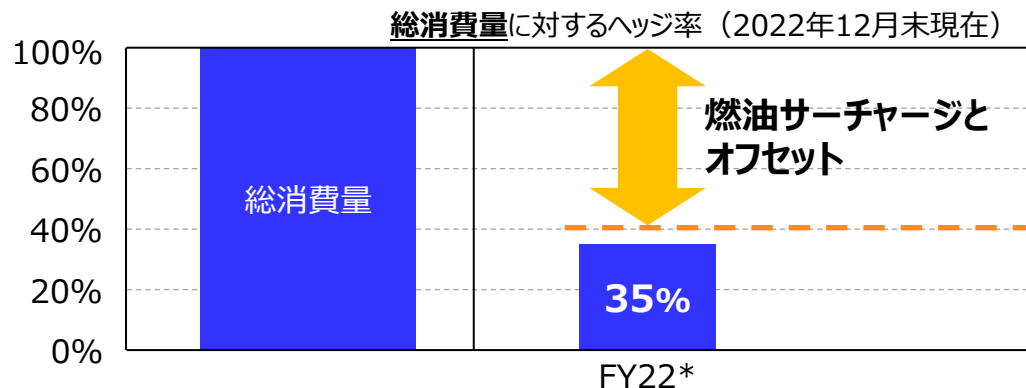
\* 2019年4-12月期実績を、新収益認識基準に置き換えて算定

	FY2019 第3四半期累計 構成比	FY2022 第3四半期累計 構成比	コロナ前実績 との差異	FY2022 第3四半期 構成比	コロナ前実績 との差異
貨物収入	北米 (ハワイを含む)	35.5	+ 12.7	45.2	+ 10.4
	欧州	15.3	△ 7.2	8.7	△ 7.0
	中国	22.3	△ 2.9	20.4	△ 2.4
	アジア・オセアニア	23.3	+ 0.0	24.6	+ 1.5
	その他	3.6	△ 2.7	1.1	△ 2.5

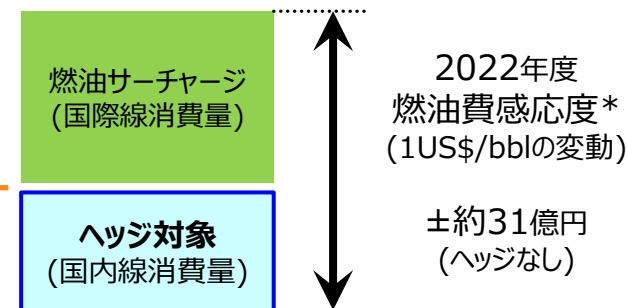
## 燃油・為替ヘッジの進捗状況 (ANA)

### 1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外 (燃油サーチャージで対応)

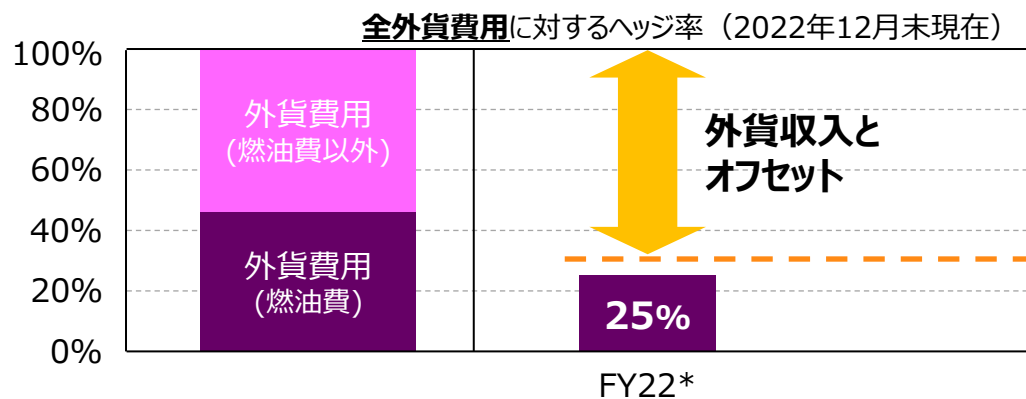


(US\$/bbl)	FY22 3Q実績	FY22 下期前提
ドバイ原油	84.8	100
シンガポールケロシン	118.3	130

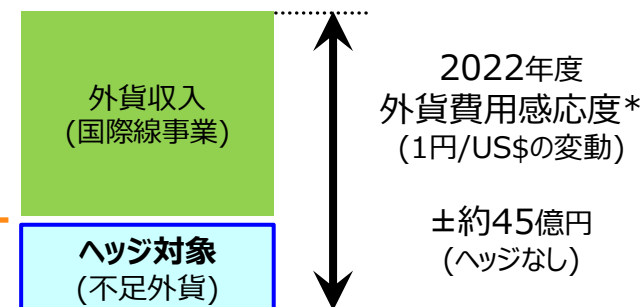


### 2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ (3年前から取引開始)



(円/US\$)	FY22 3Q実績	FY22 下期前提
ドル円レート	141.3	145



\* 2022年8月23日開示「2022年度下期 ANAグループ航空輸送事業計画」に基づいて算定

## 航空機数

	合計					退役済み機材* を除く		
	FY2021 期末	FY2022 第3四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数	FY2021 期末	FY2022 第3四半期末	前年度 期末差
Airbus A380-800	3	3	-	3	-	3	3	-
Boeing 777-300/-300ER	20	18	△ 2	9	9	18	18	-
Boeing 777-200/-200ER	10	10	-	9	1	10	10	-
Boeing 777-F	2	2	-	2	-	2	2	-
Boeing 787-10	2	3	+ 1	3	-	2	3	+ 1
Boeing 787-9	39	40	+ 1	34	6	39	40	+ 1
Boeing 787-8	36	36	-	31	5	36	36	-
Boeing 767-300/-300ER	18	17	△ 1	17	-	18	15	△ 3
Boeing 767-300F/-300BCF	9	9	-	6	3	9	9	-
Airbus A321-200neo	22	22	-	-	22	22	22	-
Airbus A321-200	4	4	-	-	4	4	4	-
Airbus A320-200neo	11	11	-	11	-	11	11	-
Boeing 737-800	39	39	-	24	15	39	39	-
De Havilland Canada DASH 8-400	24	24	-	24	-	24	24	-
<b>ANA 計</b>	<b>239</b>	<b>238</b>	<b>△ 1</b>	<b>173</b>	<b>65</b>	<b>237</b>	<b>236</b>	<b>△ 1</b>
Airbus A321-200neoLR	1	2	+ 1	-	2	1	2	+ 1
Airbus A320-200neo	7	9	+ 2	-	9	7	9	+ 2
Airbus A320-200	29	27	△ 2	-	27	27	21	△ 6
<b>Peach Aviation 計</b>	<b>37</b>	<b>38</b>	<b>+ 1</b>	<b>-</b>	<b>38</b>	<b>35</b>	<b>32</b>	<b>△ 3</b>
<b>グループ計</b>	<b>276</b>	<b>276</b>	<b>-</b>	<b>173</b>	<b>103</b>	<b>272</b>	<b>268</b>	<b>△ 4</b>

\* 退役済み・売却待ちまたはリース返却待ちの機材

## 航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差
売上高	1,498	1,802	+ 304	345	530	+ 185
営業利益	26	51	+ 24	△ 2	△ 6	△ 3
減価償却費	36	32	△ 4	1	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	63	84	+ 20	△ 1	△ 5	△ 3
EBITDAマージン(%)	4.3	4.7	+ 0.4pt	-	-	-

	商社事業			その他		
	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差	FY2021 第3四半期累計	FY2022 第3四半期累計	前年差
売上高	614	765	+ 151	276	272	△ 4
営業利益	6	30	+ 23	11	3	△ 7
減価償却費	8	6	△ 1	4	2	△ 1
EBITDA (営業利益+減価償却費)	15	37	+ 21	15	6	△ 8
EBITDAマージン(%)	2.5	4.8	+ 2.4pt	5.6	2.5	△ 3.1pt

## グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

## グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である  
私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます  
私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

## グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で  
世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針  
(ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)  
安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)  
常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)  
誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)  
多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)  
グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

## 免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、感染症の継続・拡大、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 → I R 資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部

Eメール : [ir@anahd.co.jp](mailto:ir@anahd.co.jp)